

2016 年 7 月 23 日

発掘調査で見つかった恭明宮

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 上村和直

1. はじめに

恭明宮は、明治時代の初頭に現在の京都国立博物館の地に造られた、宮内省関係の施設です。博物館構内の発掘調査で発見した遺構をもとにして、これまで不明な点が多かった恭明宮のようすを探ってみます。

2. 鴨東地域の遷り変わり〔表 1・図 1〕

- ① 平安時代後期 (法住寺殿期)
平氏の六波羅エリアの南側⇒白河上皇による法住寺殿の造営・・・院の御所と付属寺院
- ② 鎌倉時代 (再建法住寺殿期)
源頼朝による法住寺殿の再建⇒北側に六波羅探題が置かれる
- ③ 桃山時代～江戸時代 (創建期方広寺・再建期方広寺・近世の方広寺)
豊臣秀吉による方広寺造営⇒秀頼による再建⇒焼亡⇒妙法院境内⇒上地令で御料地
- ④ 明治時代初期 (恭明宮期)
方広寺旧境内に恭明宮を造営⇒2年後に廃絶
- ⑤ 明治時代後期以降 (帝国京都博物館期)
恭明宮旧敷地⇒南部に帝国京都博物館、北部に豊国神社を造営。

3. 恭明宮とは〔表 1・図 4・5〕

恭明宮の目的

京都御所内の歴代天皇家の位牌や仏像・仏具の安置。京都に残った女官の住居を建設。

恭明宮の歴史

明治 2 年 (1869) に計画され、方広寺跡地が建設予定地となる。翌 3 年に地鎮、翌 4 年に完成。その後荒廃し、明治 6 年 (1873) に機能を停止。その際に、位牌は泉涌寺、仏像・仏具は水薬師寺に移される。

明治 9 年 (1876) に、建物は京都府に移管され、明治 11 年 (1878) までに売却。建物用材は豊国神社建設に再利用され、残った部材は京都府下の学校などに利用。女官住居棟の一部は盲啞院 (のちに京都市立待賢小学校) に移築。一方、明治 8 年 (1875) に豊国神社の造営が始まり、翌年恭明宮の住居棟の一部を仮社務所とする。その後、仮社務所は神社に払い下げられ、社務所付属屋として使用。現存社務所がこの建物の可能性もある。

規 模

東西幅 148.7 m、南北幅 230.49 m。

間取り

敷地北側に、仏像・位牌が安置された霊明殿が位置する。敷地中央部は南北塀で東西に分かれ、両側に女官の住居棟 (局) が並ぶ。敷地南側に、遙拝所・警備詰所・馬舎が位置する。敷地周囲は、築地・溝が廻り、南辺に表門が位置する。

4. 京都国立博物館構内での発掘調査〔図 2・3・5〕

今回 (2015 年度) の発掘調査

本館中庭 (13 区・14 区) と北側 (17 区) の調査：南北方向の石組溝 11 (幅約 0.8 m、深さ約 0.7 m)、溝の西側に石列 12 (築地跡) と溝 13 (築地内溝)。方位は、北で東へ約 3 度傾く。

本館北東部 (15 区) の調査：南北方向の溝 22 (幅約 2 m、深さ約 0.5 m)。

これまでの発掘調査〔図 5〕

本館北側の 2002 年立会調査と本館 8 室床下の 2007 年立会調査：西面する石垣など。この遺構は溝 11 の延長。

2008 年の新館建替の調査：南北溝 63 (幅約 2 m、深さ約 0.5 m)・南北溝 64 (幅約 1.5 m、深さ約 0.6 m)。溝 63 は溝 22 の延長。

2009 年の新館建て替えの調査：斜行溝 103 (幅 0.5 ～ 1 m、深さ 0.1 m)・柵 7 / 井戸 104 (円形で径約 2 m、漆喰井戸椀径 1 m) など。

5. 恭明宮の復元〔図 3～5〕

発掘調査で確認した明治時代の遺構、及び現博物館敷地境界線などを基にして、「恭明宮造営出来形絵図」(図 4) と合わせると図 5 となる。この結果、溝 11 は恭明宮敷地東限の溝、溝 22 (溝 63) は敷地東部の南北区画溝、溝 64 は女官住居棟群の裏側の南北溝にあたる。また、井戸 11-104 は東三局 (梅園) の住居内部の井戸と推定できる。

敷地南辺は現七条通北辺・西辺は博物館正門南北塀、北辺は神社境内、東辺は本館付近。

今回の調査で、恭明宮に関連する遺構を具体的に確認し、位置や構造などを明らかにできた。

【引用・参考文献】

木下知威『恭明宮に関する研究 - 建築計画および建築史、神仏分離の視点から -』2010 (平成 22) 年度 歴史学 建築助成、福武学術文化振興財団 2011 年。

宮内庁書陵部蔵『恭明宮御造営掛 明治三年 同四年 工事録 内匠寮』。

早稲田大学中央図書館蔵「恭明宮造営出来形絵図」『中御門家文書恭明宮関係書類 古典籍総合データベース』。

京都国立博物館編『京都国立博物館百年史』同博物館、1997 年。

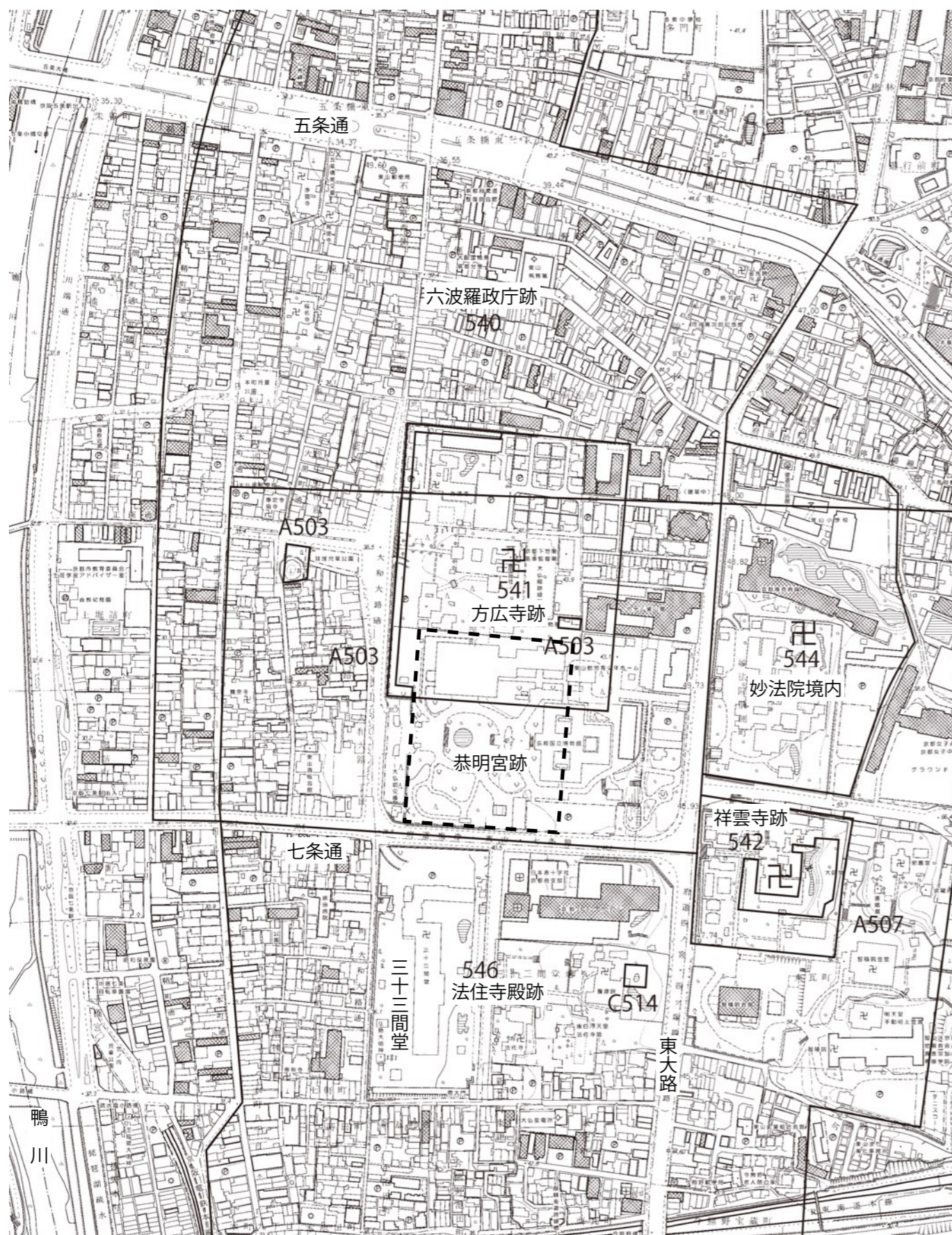
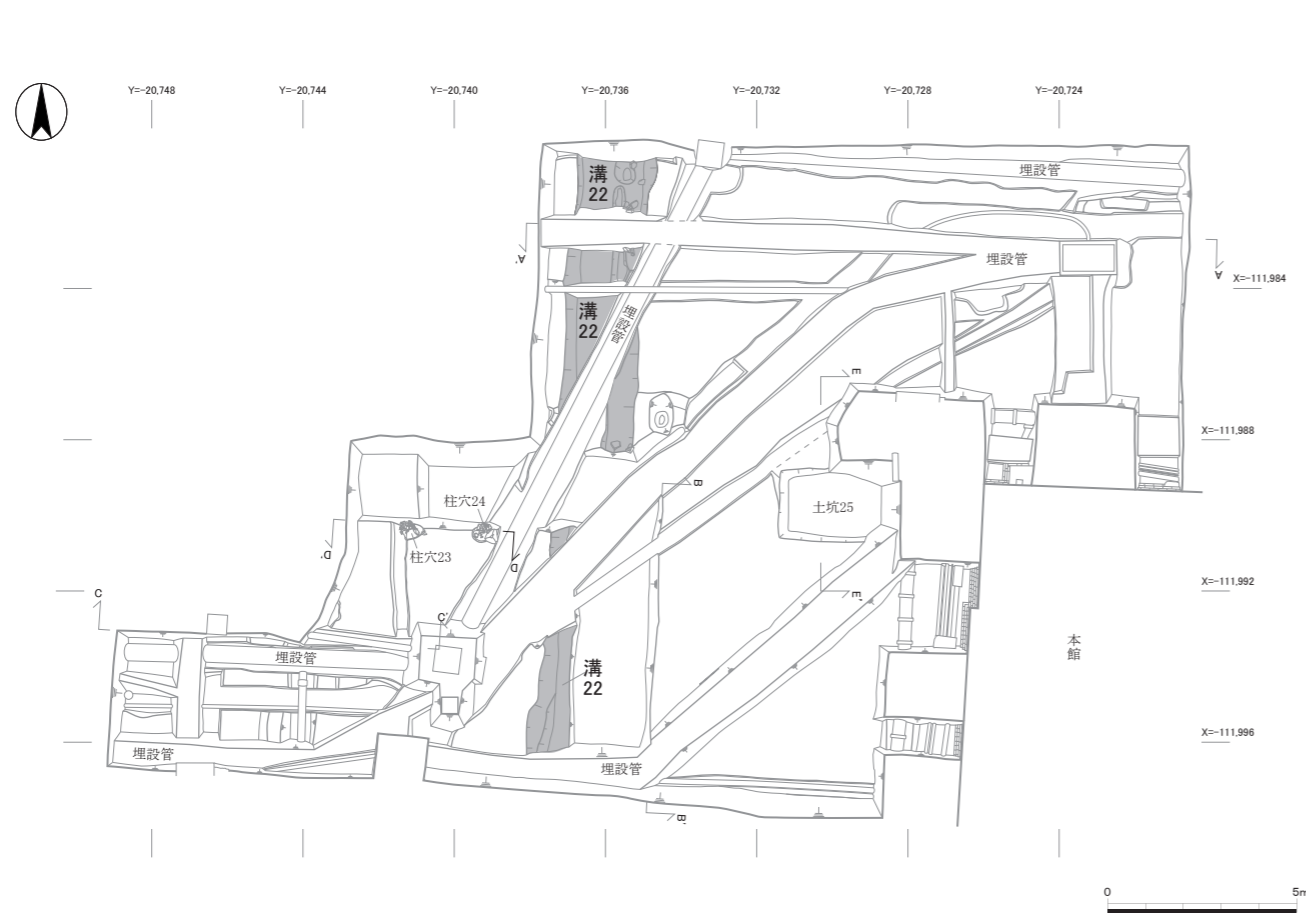


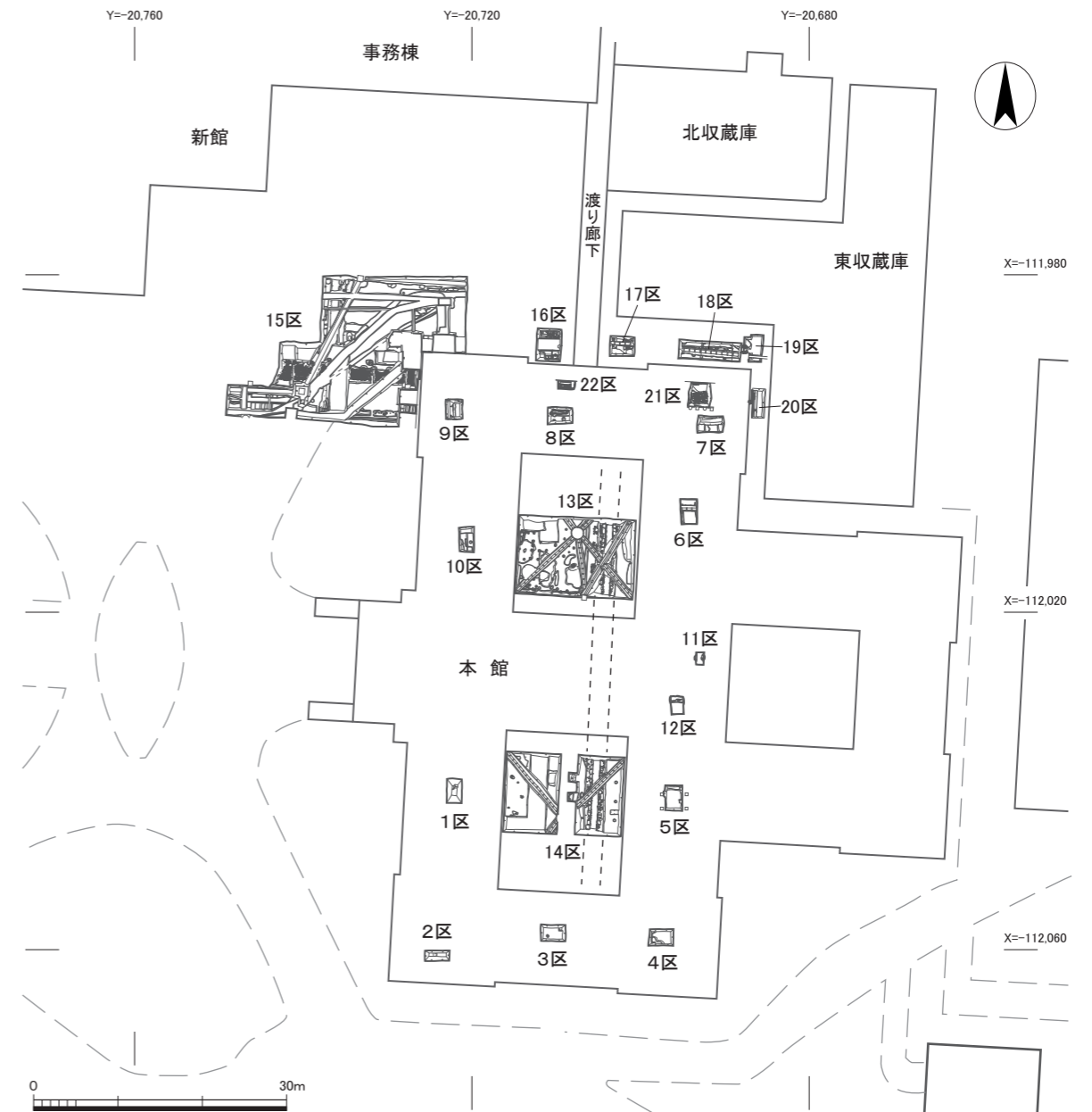
図1 遺跡の位置図 (1:5000)

時代	法住寺殿・方広寺関係のこと がら	恭明宮関係のこと がら	博物館関係のこと がら	関係する できごと
平安	永暦2年(1161)4.13後白河上皇により法住寺殿を造営。 長寛2年(1164)12.17平清盛が三十三間堂を造営。			1167年平清盛が太政大臣となる。
桃山	天正16年(1588)5.15豊臣秀吉により大仏殿造営。文禄4年(1595)閏7.13大仏殿ほぼ完成するが、地震により大破。			1585年豊臣秀吉が関白となる。 1587年聚楽第を造営。
江戸時代	慶長4年(1599)5.7豊臣秀頼により大仏殿再建。慶長7年(1602)12.4鑄造中大仏から出火し大仏殿焼亡。 慶長14年(1609)大仏殿再々建、5年後に完成。 寛政10年(1798)7.2落雷のため本堂(大仏殿)・楼門・回廊が焼亡。 天保年間(1830~43)半身像と仮堂を再建。			1598年豊臣秀吉が死去。1600年関ヶ原の戦い。 1615年大坂夏の陣。豊臣氏滅亡。
明治時代	明治3年(1870)方広寺敷地の大部分を明治政府が公収。 翌年4.2鐘楼を解体〔坊目誌〕。	明治2年(1869)1.20恭明宮が計画される。 明治3年(1870)3.18地鎮、翌年5月に完成〔中御門経緯日記〕。		1868年明治維新。同年明治天皇が東幸する。
	明治8年(1875)12.25方広寺跡に豊国神社造営を明治政府が命じる。翌年、場所を決定〔豊国神社誌〕。	明治6年(1873)3.14恭明宮の機能を停止する〔明治天皇記〕。		
	明治9年(1876)7月頃、造営卜定地内に仮拝所設け、恭明宮一局を仮社務所とする。	明治9年(1876)3.23恭明宮建物の管理が宮内省から京都府に移管される〔府庁文書〕。		
	明治12年(1879)4旧恭明宮一局を神社に払下げる。 明治13年(1880)2.26豊国神社が遷宮。明治17年(1884)現位置に鐘楼を再建する〔豊国神社誌〕。	京都府は建物を入札にかけ、明治11(1878)までに売却〔府庁文書〕。建物用材は豊国神社建設に再利用され、残余は府下小学校などに利用される。住居棟の一部は盲啞院に移築される		
			明治22年(1889)5.16「帝国京都博物館」の設置が公布される。敷地は旧恭明宮跡地に決まる〔京博97〕。	1889年大日本帝国憲法発布。
	明治28年(1895)3.4崩門(三十三間堂西門)を東寺へ移築〔東寺略史〕。		明治25年(1892)4.4造営工事を開始。 明治28年(1895)10.31本館が完成。明治30年(1897)5.1開館。その後、「京都帝室博物館」と改称〔京博97〕。	1894年日清戦争起こる。 1895年七条通を拡幅、その後市電を敷設する。
			大正13年(1924)博物館を京都市に下賜し、「恩賜京都博物館」と改称〔京博97〕。	1924年大正天皇が結婚する。
昭和	昭和48年(1973)3.28方広寺が放火により焼亡。		昭和27年(1952)国に移管し、「京都国立博物館」と改称する。 昭和40年(1965)新館を建設する〔京博97〕。	1965年法住寺殿域の発掘調査を開始。1978年方広寺石墨の発掘調査。
平成			平成21年(2009)新館の再建開始。 平成25年(2013)新館再建完成、翌年開館。	1994年博物館構内の発掘調査開始。

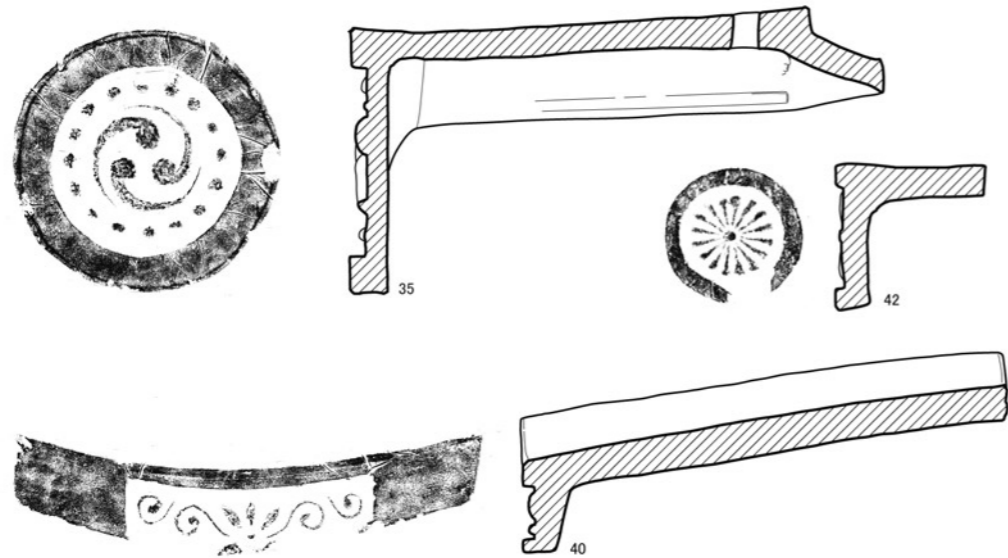
表1 法住寺殿・方広寺・恭明宮に関連した略年表 (京都国立博物館編『京都国立博物館百年史』)



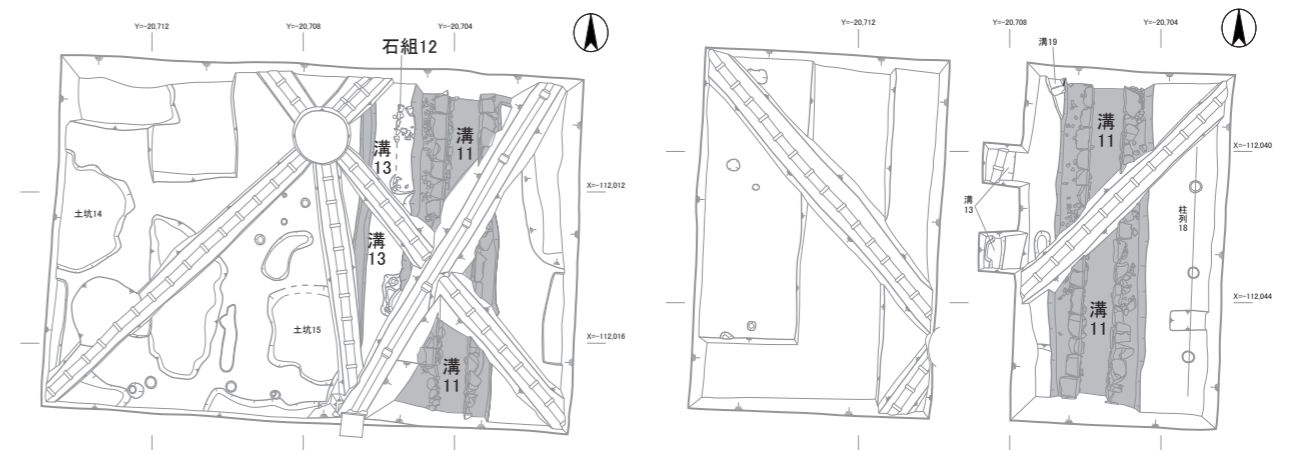
15区平面図 (1:200)



調査区配置図 (1:1000)



恭明宮所用瓦 (1:4)



13区平面図 (1:200)

14区平面図 (1:200)

図2 2015年度調査地と遺構図

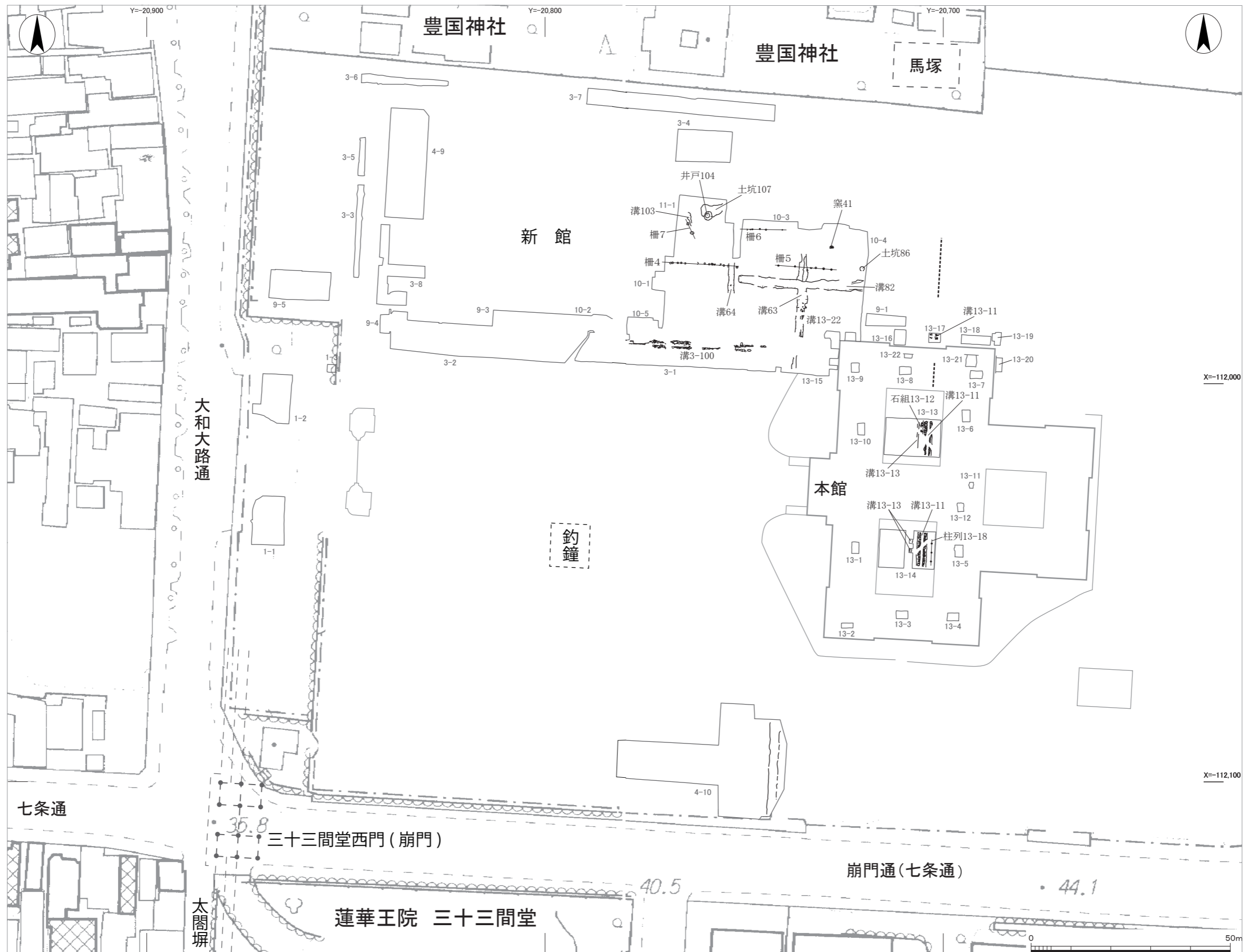


図3 江戸～明治時代の遺構概要図 (1:1000)

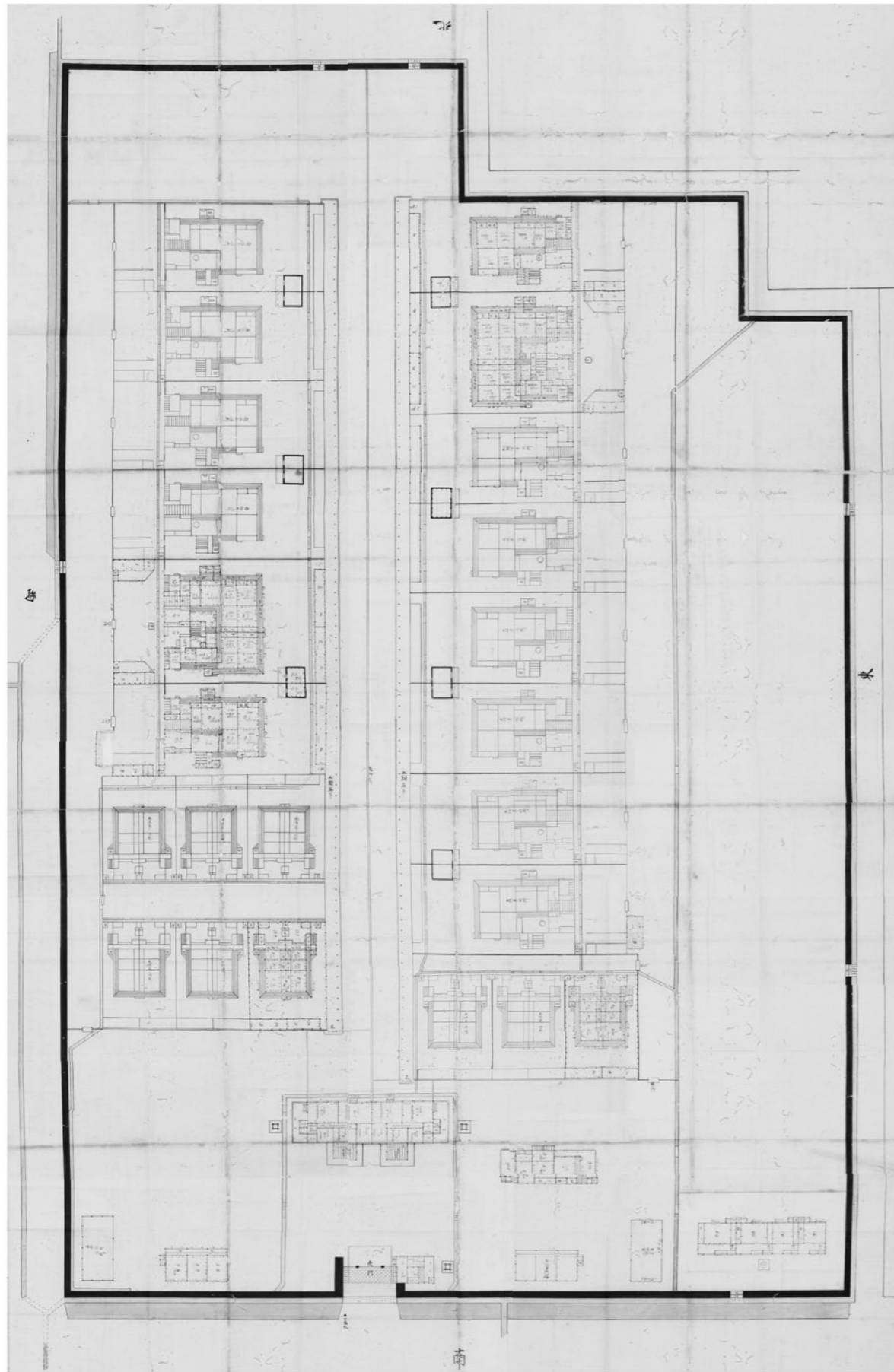


图4 「恭明宮造営出来形絵図」『中御門家文書恭明宮関連書類』(早稲田大学蔵)

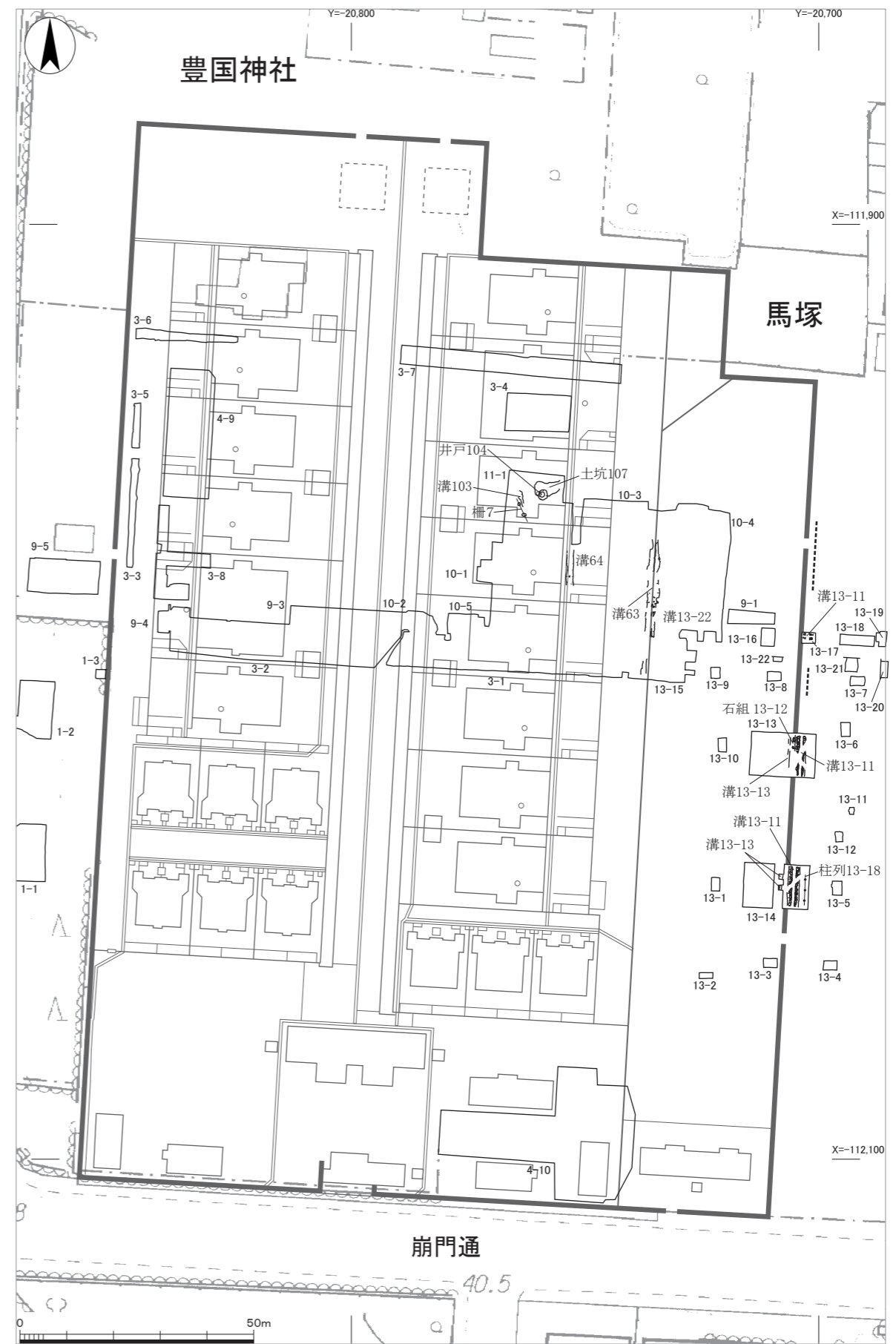


图5 恭明宮指図と明治期遺構概要図(1:1200)